



滋賀大学へのご寄附のお願い

本学では『きらきら輝く滋賀大学基金』を設置し、学生の教育・研究、国際交流、修学、課外活動支援、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。
皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

『きらきら輝く滋賀大学基金』の種類

一般基金	・ 学生達の教育・研究や国際交流活動など、大学全般に対する幅広いご支援
(以下、特定基金：特定目的へのご支援)	
修学支援事業基金	・ 経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援
スポーツ・文化活動基金	・ 学生の課外活動に係るご支援(特定の部活動への支援を指定可)
データサイエンス基金	・ データサイエンス教育研究の高度化に係るご支援
経済学部基金	・ 経済学部における教育研究活動に係るご支援
附属学校園いまを生きる基金	・ 教育学部附属学校園の教育環境充実をはじめ、教育活動に係るご支援
藤村泰子記念基金	・ 障害児者の音楽教育・音楽活動に関するご支援

詳しくは寄附金ホームページをご覧ください。

<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>

〈お問い合わせ先〉

滋賀大学基金室(広報課内)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号
TEL 0749-27-1004 FAX 0749-27-1129
E-mail kikin@biwako.shiga-u.ac.jp



滋賀大学広報誌 Vol.53

しかがだい

[発行日] 2021年4月
[発行] 国立大学法人 滋賀大学
[編集] 滋賀大学広報部会
須江 雅彦(理事・副学長)
太田 拓紀(教育学部)
大清水 裕(教育学部)
増山 裕一(経済学部)
宮西 賢次(経済学部)
笛田 薫(データサイエンス学部)
西山 さよ(広報課広報係)
広報アドバイザー
富永 佳与子

滋賀大学広報課広報係
〒522-8522 彦根市馬場1丁目1番1号
TEL 0749-27-7524
E-mail koho@biwako.shiga-u.ac.jp

<https://www.shiga-u.ac.jp/>



滋賀大学

検索



学生広報サポートチーム考案
カモンちゃんLINEスタンプ販売中!



LINE STOREを
チェックなり!



カモンちゃん

日本の開国を主導した井伊直弼公をモチーフにした滋賀大学公式キャラクター。名前は直弼公の官位、掃部頭(かもんのかみ)に由来しています。滋賀大学に"come on"という意味も掛けられています。本学学生が在学中に取り組み生み出されました。

SHIGA
UNIVERSITY
Public
information
magazine

しかがだい

滋賀大学
広報誌

Vol.
53
2021.04



コロナ禍と向き合う、 キャンパスと学生たち

座談会 あのときの私たち。いま、思うこと

滋賀大学 講堂

学長メッセージ コロナ禍を 乗り越える 未来創生大学 —新たな教育の構築—

滋賀大学長
位田 隆一



大津キャンパス正門にて

これまでを超える学びを実現しよう

新型コロナウイルス感染症COVID-19の来襲からもう1年以上が過ぎた。この間の医療関係者の献身的な努力により、効果的な治療や治療薬、ワクチン開発が進んでいる。昨年は大学も、卒業式、入学式の中止、構内立ち入り禁止、オンライン授業、3密を避ける教室、実験・実習の困難等、これまでにない教育研究環境に置かれ、学生間の横のつながりにも困難が生じた。そんな中、初めてのオンライン授業は、教育の質の低下が懸念されたが、教職員や学生の情熱と並ならぬ努力によって、大きな混乱なく乗り越えてきた。

この中で我々が学んだのは、オンライン授業が新しい教育の形態であることだ。オンラインながら、学生と教員が画面を通じて「対面」し、大教室では望みえない「密」な関係が作られた。教員も教材や話し方に一層の工夫を凝らし、学生も容易に質問や意見をぶつけるようになった。学修に緊張感が生まれた。

困難や危機は新たな発想や生き抜く活力を与える。オンラインが物理的距離をなくしたことで、これまで招くことが難しかった講師による授業も容易になり、国内外の大学

や学生とつながることができる。今は発展途上であるが、想像力とチャレンジによって、これまでの「対面」を超える、新たな「深い学び」が実現する。海外講師による講演やセミナーはもちろん、例えば自宅を各自の実験室化したオンライン授業、これまで縁のなかったポーランドの大学とのオンラインセミナーや共同翻訳作業、海外連携大学とのオンラインフォーラムによるアイデア共有とパートナーシップの強化、学外のオンライン催しへの参加による未知の体験など、こころ躍るような試みが生まれつつある。

新入生の皆さんは、どのような新鮮なアイデアを出してくれるだろうか。在学生諸君も、今までの学びをひっくり返すような斬新な方法を提案してほしい。大学は、教員が教え、学生が学ぶだけの場ではない。教職員と学生が一緒に、さらに学外の多様なアクターとも連携しつつ、作り上げていく場である。COVID-19との闘いの最中の昨年9月に私は「未来創生『滋賀大学』構想」※を発表した。それはこうした新しい可能性を基礎とするものである。現下の危機を乗り越えた先を見据えて、みんなで新しい滋賀大学を作っていこう。

※新・滋賀大学構想—未来創生大学「滋賀大学」へ



Contents

学長メッセージ

01 コロナ禍を乗り越える未来創生大学

滋賀大学長 位田 隆一

巻頭特集

03 コロナ禍と向き合う、 キャンパスと学生たち

座談会 あのと私の私たち。いま、思うこと
オンライン授業紹介
滋賀大学の新型コロナウイルス感染症対策

10 ニュース&トピックス

11 きらきらしがだい人

卒業生インタビュー

15 輝く卒業生たち

松永 瑞紀さん 本田技研工業株式会社 勤務
竹本 慎太郎さん 近江八幡市立岡山小学校 教諭

17 海外留学できる日に備えて

学生広報サポートチーム企画

19 コロナ禍と学生生活

shiga-uni リアルタイムしがゆに

21 CLUB & CIRCLE

クラブ&サークル

学生広報サポートチーム活躍中！

広報誌の記事企画(P19)やカモンちゃんLINEスタンプ考案(裏表紙)など大学の広報活動を学生目線でサポートしています。一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。

経済学部 酒井 優美／小野 愛理 データサイエンス学部 細川 寛司
教育学部 乾 幸太郎／古田 莉子



詳しくはこちら

巻頭特集

コロナ禍と向き合う、 キャンパスと学生たち

2020年春学期、滋賀大学は入構禁止となり、オンライン授業に全面移行しました。秋学期には、オンラインとの併用でようやく対面授業が再開。入試以来、一度もキャンパスに足を踏み入れることができなかった1回生は新鮮な気持ちだったことでしょう。今回の特集では、座談会で学生に当時を振り返ってもらうと共に、オンラインならではの授業や大学のサポート体制について紹介します。

COVID-19 CORONAVIRUS



滋賀大学 講堂前

座談会

あのときの私たち。 いま、思うこと



講堂内 多目的室

コロナ禍での自身の生活、考え方の変化、滋賀大学のサポートなどについて、学生に語り合ってもらいました。

※新型コロナウイルス感染対策に十分に配慮して行いました。

DIALOGUE

椎名 洋 教授
データサイエンス学部



植村 歩実
データサイエンス学部 1回生
小野高校(兵庫県)



大畑 喜紀
教育学部 2回生
小野高校(兵庫県)



木下 怜香
経済学部 3回生
九州国際大学付属高校(福岡県)

※学年は2020年12月現在

自分なりの工夫で 有意義な時間を過ごす

椎名 春学期の間、皆さんはどのように過ごしていましたか。

木下 私は福岡出身なのですが、実家には戻れないし、部活(バスケット部)もできなくて。バイト先から手当があつたので生活面では助かっていました。

大畑 僕も部活(ボート部)は自粛、バイトはシフトが減ってしまい、一人暮らしなのでちょっと大変でした。

植村 入学式もなく、ずっと春休みの気持ちのままでした。授業はもちろんオンラインで受けていましたが、大学生活に本格的なギアを入れることができて。とにかく家でできることをしようと、高校が休校になった妹、テレワークになった父との散歩を日課に。手芸とか、塗り絵にもハマって、思いがけず、趣味ができました。

大畑 家にいるとどうしてもだらだらしてしまうし、僕は時間を無駄にしたくなかったので、小説をたくさん読みました。あと、筋トレも。

木下 私も高校時代の友人と一緒に「リモート筋トレ」をしていました。今も続けています。

椎名 それはすごい。3人とも趣味ができて、時間を有効に使ったり、有意義に過ごしていたのですね。感心します。では、秋学期から対面授業が再開された時はどうでしたか。

植村 名前とモニター越しの顔だけは知っ

ていたクラスメイトと初めて会った時は不思議な感じでした。でも、やっと友だち関係が築けてうれしかったです。

椎名 そうですね。1回生はつながりが作りにくく、つらかったと思います。実は私も昨年4月に赴任してきたばかりで、教職員の方と交流を図る機会がなかなかありませんでした。なるべく、いろいろなところに顔を出すにはしていました。

大畑 確かに友だちや先生の顔を見て、やっと戻ってきたと感じました。

オンライン授業では 対面とは違う成長を実感

椎名 オンライン授業の感想を聞かせてください。

木下 オンラインは受講生の全員の顔が見えるので、やる気が出ます。グループディスカッションでは、ランダムにグループ分けされるので、初めて話す人や慣れていない下級生にはこちらから話しかけるようにしました。対面とはまた違うコミュニケー

ションスキルが身についたと感じます。

椎名 それは素晴らしい。そのスキルは、就活にも将来にも役立つと思います。

大畑 課題について自分で調べてレポートを提出する授業があつたのですが、対面の時よりも時間をかけて深く調べられるけれど、友だちの意見をとっさに聞けず、自分の考えが正しいのか、モヤモヤしたまま提出してしまつて。先生のフィードバックを見て、ようやく腑に落ちる感じでした。

植村 一人だと授業に集中しやすい反面、カメラをオフにすると集中力が途切れてしまいがちでした。でも、授業中にチャットで質問しやすいのはよかったです。それと、父が確率や統計が好きで、実は椎名先生の授業と一緒に受けていました。

椎名 それは担当教官としてうれしいですね。オンラインでの試験はどうでしたか。何でも見れてしまうので、学生が自分の頭で考えないといけないうに工夫する先生も多かったと聞いています。

大畑 そうですね。教育学部でも、映像を見て、これについてどう考えるか論述する

SUPPORT

学生相談総合窓口を設置

2020年5月に、学生支援課による学生相談総合窓口(メール対応)を設置しました。新型コロナウイルス感染症の影響で生活面や修学面等について、心配なこと、困っていることがあれば随時対応。特に1回生については、どこに連絡したらよいかわからない、といったことにも遠慮なく連絡してほしいと伝え、きめ細かく対応しました。



感染症対策を実施した学食の様子

試験が増えたと思います。学んだ知識をもとにして、いかに意見を自分の言葉で説明するかということや、考えをまとめていくプロセスも問われるようになりました。そしてそれがとても大切だと感じました。

スピーディかつ行き届いたサポートに安心できた

椎名 コロナ禍での大学のサポートはどうでしたか。大学としては、高等教育修学支援新制度、日本学生支援機構の貸与型奨学金、文部科学省の学生支援緊急給付金、滋賀大学独自の給付型奨学金といった経済的支援を行いました。彦根市から無償提供いただいた近江米の配布もしましたね。

大畑 給付金のことは、講義や履修などの照会、検索ができる滋賀大学キャンパス教育支援システム「SUCCESS(サクセス)」で知っていました。お米は友だちが配布を受けていましたね。

木下 私も大学からの情報源が同じく「SUCCESS」だったので、頻繁にチェック

していました。休校中に履修登録が必要だったのですが、専用の窓口があったので電話で確認したところ、すぐに対応してくれました。

植村 私は大学のホームページをよく見ていました。コロナ対策の特設サイトがあってわかりやすかったです。

大畑 オンライン授業の開始も支援も対応がすごく早かったし、何かと情報を発信してくれたので、助かりました。

木下 本当にそう。教職員の方が学生のことを考えてくださっている優しさを感じました。

椎名 私も滋賀大学は学生へのサポートが非常に行き届いていると驚きましたね。

当たり前のことに感謝し これからの成長につなげたい

椎名 では最後に、コロナ禍を経験して思うこと、変化したこと、成長したことを聞かせてください。

植村 6月から学習塾でのバイトを始めて、入塾を希望する中高生と保護者の面談を

担当しているのですが、中高では対面授業が再開されても学習があまり進んでおらず、卒業までに理解が必要な範囲に達していない場合が多いことを知りました。また、家族の生活の変化もあって、今までよりも、さまざまな立場にある人について、考えを深められるようになったと思います。

大畑 自分の安全・健康管理に気を遣うようになりましたし、感染を防ぐなど、相手のことも考えて行動することが身につきましたね。それに、当たり前だったことが当たり前ではないと痛感しました。日常の小さなことにも感謝できるようになりました。

木下 私は計画の立て方が変わりました。今までは1つの計画を立てるだけでしたが、何が起ころうともいように別のプランも立てるようにしています。世界情勢に関心を持ち、物事をいろいろな視点から捉えて考えられるようになったことも成長を感じています。

椎名 3人ともコロナ禍を冷静に捉え、自分をワンステップもツーステップも高めたことがよくわかりました。今後も滋賀大学一丸となって成長を続けていきたいと思います。



秋学期の対面授業(データサイエンス学部)

大畑 喜紀さん

世の中、何か起こるかわからない、何かひとつで世界が一変してしまうことを実感しました。それだけに大学生活やプライベートも含め、物事や人への感謝をつねに意識するようにしています。

木下 怜香さん

コロナ禍で行動が制限されたこともあり、コロナの前後で比べると、家族や友人とのコミュニケーションも、学びへの姿勢も主体性、積極性が増しました。これを今後にも活かしていきたいです。

オンライン授業紹介 教育学部

NHKで放映！多数の学生がオンラインで実験に参加した 自然科学への招待

理系科目が苦手な学生も 前向きに取り組める内容

オンライン授業では、実習や実験を行うのは難しいのではないかと。そのような声が一部にはあがっていましたが、私はいずれも可能だと確信していました。それを実証したのが「自然科学への招待」という授業です。全学共通教養科目の自然分野の一つで、1回生から4回生まで履修できます。専門科目とは異なり、理科は少し苦手という学生も少なくありません。そんな学生の興味関心を引き、オンラインで再現性の高い実験結果を共有するにはどうすればよいか考えました。

まず行ったのは、安全性が高く、短時間かつ高い技術を必要としない実験内容の選定です。全15回の授業のうち9回分の実験キットを私が用意し、60名の学生一人ひとりの自宅に郵送しました。自前で用意してもらう道具や機器については、普段使っているコンロや食器、100円ショップで手に入るものなど、学生の負担、安全に支障がないことを徹底しました。実験内容は、私が制作に関わったNHK Eテレの番組「考えるカラス」「カガクノミカタ」と連動させました。番組は一般の方が実験にトライするなど参加型の楽しい内容で、観察→課題発見→仮説→実験→結果考察といった科学的な見方、考え方を習得するものです。

授業では、まず番組の前半を視聴し、課題や仮説をチャットやビデオ通話でディスカッション。次は各自で実験して結果を共有しました。実際に行ったのは、風船を乗せたお盆を床に落とすとどうなるか検証する実験や、粘土と針金でアリを作って、体や触覚、足の数など昆虫の構造を学ぶ工作などです。他にも私が一般の方向けのワークショップで実施している「京都の伝統産業とサイエンス」のプログラムから、宇治茶の抽出温度における苦み・旨味成分の違いを、お茶を淹れて飲み確かめる実験も行いました。

学びだけでなく、 安心も届ける授業に

全15回の授業終了後、学生に実施したアンケートでは、「子どもの頃に経験した通信教育や科学雑誌の付録のように、実験キットが届いてワクワクした」など、軒並み好評でした。また、入学後、一度も登校できていなかった1回生に配慮し、授業開始前に上級生と自由に雑談ができる時間を設けるといった工夫もしました。遠方や一人暮らしの学生にとっても、交流の場、精神安定の場としての機能を果たしたようです。今回の授業でこだわったのは、一方通行ではなく、教員と学生、学生同士が同時双方向でやりとりすること。Microsoft Teamsのチャットシステムによるテキスト・画像共有や動画投稿、投票システムも存分に活用しました。また、実験中はオフラインにしたり、ビデオ通話は必要な時のみにしたりするなど、学生の通信料金の負担軽減をはかりました。通信障害に伴う切断や聞き漏らしには、授業内容の文字起こしを共有。思わぬトラブルにも不公平のないようにしていきました。

秋学期からは対面授業が再開しましたが、私の授業はオンラインでの出席も可能なハイブリット型で実施。体調不良や、やむを得ない用事で出席できない学生、新型コロナウイルスの感染が不安で、登校を躊躇している学生にも対応しています。いかなる状況においても実施可能なオンライン授業は、大学教育の主流となっていくのではないのでしょうか。学びの質を落とすことなく工夫していますので、滋賀大学で安心して学んでほしいと思います。



加納 圭 教授(教育学部)

日産財団理事、社会対話技術研究所代表理事、日本科学教育学会理事、西澤育英基金理事、中辻創智社評議員などを兼任。NHK「考えるカラス～科学の考え方～」 「カガクノミカタ」番組委員として両番組制作に携わった。文部科学大臣表彰・科学技術賞(理解増進部門)を2度受賞(2014, 2017)。



加納教授が準備して各学生に郵送した実験キット



宇治茶の抽出温度に関する実験

ICTの機能で円滑に学習できた

萩原 希泉 教育学部 膳所高校(滋賀県)

加納先生が担当する「中等理科教育法Ⅰ」を受講しました。「自然科学への招待」と同様に、郵送された実験キットを自宅で受け取りました。必要な道具を準備してくださったので、自宅での実験に対する抵抗感が減って、とてもワクワクしました。自分で作ったアリの模型や図を撮影し、Teamsのチャットに投稿すると、他の学生と意見交換を円滑に行うことができました。対面授業でも活用できるICTの機能を学習できたことも良かったです。



REVIEW ～コロナ禍を振り返って～



椎名 洋 教授

「EdTech」※が急速に進展しましたね。教員としては、オンライン授業中「拍手」「いいね」の機能で学生の反応を見られることをうれしく思いました。今後オンライン授業のさらなる充実をめざしたいです。

※エドテック:テクノロジーを用いて教育を支援する仕組みやサービス



植村 歩実さん

秋学期になってようやく大学生になれたと感じています。このコロナ禍を体験して、あふれる情報をいかに捉えるか、その情報を鵜呑みするのではなく、客観的に判断する力もついたと思います。



大畑 喜紀さん

世の中、何か起こるかわからない、何かひとつで世界が一変してしまうことを実感しました。それだけに大学生活やプライベートも含め、物事や人への感謝をつねに意識するようにしています。



木下 怜香さん

コロナ禍で行動が制限されたこともあり、コロナの前後で比べると、家族や友人とのコミュニケーションも、学びへの姿勢も主体性、積極性が増しました。これを今後にも活かしていきたいです。

海外のビジネスパーソンとディスカッションする ビジネス最前線

〈荒谷先生〉 各国の商社経験者から 国際貿易のリアルを学ぶ

経済学部共創グローバル人材プログラムでは、日本の学生や留学生を対象に、英語で授業を行う専門科目を開講しています。その新しい試みとして2020年秋学期から始まったのが、「ビジネス最前線(Global Business)」という、海外ビジネス経験豊富な現役実務家による授業。今年度は「商社編」と銘打ち、海外駐在を中心に日立グループの商社に34年間勤めた私が授業を担当しました。

授業の特徴は、私の国際貿易経験を伝えるのはもちろんのこと、各国にいる私の元同僚や先輩、顧客から10名をゲストスピーカーとして招き、Zoomを活用して学生とディスカッションしていることです。ゲストは日本人2名と、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、オーストラリア、台湾、マレーシア在住の外国人。彼らには学生からの事前質問に答えるかたちで、グローバルビジネスに共通する難しさや、ビジネスを行ううえでの各国独自のキーポイントなどを語っていただいています。

初回のゲストスピーカーに登場いただいた古知屋氏は、タイにある日立グループ企業の社長も務めた方。「今やすべてのビジネスがグローバルだ」と、AI時代で活躍するための心構えを熱く語ってくださいました。またグローバルビジネスと言っても、今は働き方が多様化しています。学生には個性

を活かせる働き方や自身の可能性を見出し、ほしいと、興味深いキャリアのゲストも招きました。例えばアメリカ在住のKuykendall氏は、英語教師として来日したのち日本企業の海外駐在員を務め、今は中学校の教師として活動されています。またイギリス在住のHarland氏は、日立グループの欧州拠点で活躍されたのち、パートナーと起業されたキャリアをお持ちです。学生からは、彼らのキャリアチェンジに関わる質問が多く寄せられました。学生には本講義を通じて、海外で働くおもしろさや難しさと共に、AI時代となっても社内外に信頼できる仲間を見つけてビジネスを行うこと、人と人とのつながりが大切なんだということを感じてもらえればうれしいです。

〈澤木先生〉 母校愛あふれる先輩が多い 滋賀大学ならではの授業

この授業はオンライン授業だからこそ実現したげいたくな講師陣が魅力の授業です。2021年度は製造業での海外経験をお持ちの卒業生に登壇いただく予定。また荒谷先生も含め、商社・金融・製造業と多分野で活躍する卒業生に登壇いただくオムニバス形式の講義も検討しています。このように、後輩のために協力して下さる、母校愛あふれる先輩がたくさんいらっしゃるのが滋賀大学の魅力と言えるでしょう。今年度はプロジェクト科目として試行しましたが、将来的には正規科目として、学部生はもちろん大学院生も広く受講できる科目とする構想です。多くの学生のみならず、さまの受講を楽しみにしています。



荒谷 和秀 非常勤講師(経済学部)

滋賀大学経済学部卒業生。1979年から2013年まで日立グループのエレクトロニクス専門商社「日立ハイテク(旧・日立製作所)」に勤務。ドイツ・アメリカを中心に17年の駐在勤務で35カ国との貿易業務に携わる。2013年からは国内電子系メーカーにてセカンドキャリアに従事する現役実務家。



澤木 聖子 教授(経済学部)

日本企業や国内外の多国籍企業の人的資源管理、異文化間マネジメントを研究。2019年から体制整備委員会に属し、学部の理念である「士魂商才」に根ざしたグローバル・スペシャリストの養成に向け、本講義の企画に関わる。



Zoomとリアル会場をつなぎ授業を行った

世界中とつながる英語&オンライン

片山 みずほ 経済学部 関西大倉高校(大阪府)

自粛期間中にさまざまなビジネス書を読み、自分は将来何がしたいのか深く考えるようになりました。そのヒントを見つけないと、この授業を履修。英語を話すことができれば、世界中の人とつながることができると実感しました。ゲストの方はZoomで自宅から参加されるため、少しだけ部屋の様子をうかがえます。大きなソニー、ぎっしりと本が入った本棚など、国、職業、年齢、文化による違いを拝見できるのもオンラインならではの魅力です。

VOICE



この日のゲストはKuykendall氏。自身のキャリアを語り学生にエールを送った

データを活用した学生目線の政策を提案する データサイエンス入門演習

自治体の課題を分析し 理解を深める

1年次の必須科目「データサイエンス入門演習」は、滋賀大学が連携協定を結んでいる自治体や企業のデータを活用し、課題解決に向けて分析・提案を行うPBL(課題解決型学習)の授業となっています。学生は5クラスに分かれ、担当教授のもと演習を進めます。

私のクラスは、大津市役所へのEBPM(証拠に基づく政策立案)を行ってきました。滋賀県大津市は、データを活用した政策決定を推進するイノベーションラボを設置しており、私が同ラボのアドバイザーを務めていることから演習先となっています。演習では、まず大津市役所を見学します。イノベーションラボの職員の方からデータ活用事例を聞き、大津市の課題について意見交換を行います。次に、学生は少人数グループに分かれ、演習の到達目標でもあるPPDACサイクル(問題の気づき→計画→データ収集・加工・分析→分析結果の確認→結果の解釈・問題解決策の提案)に基づき、提案内容を考えます。必要なデータを、大津市のほか内閣府、総務省のオープンデータから抽出して組み合わせ、散布図などの統計グラフ(図1)、相関係数、回帰直線、信頼区間を用いて、提案内容の根拠を視覚化していきます。中間発表で職員の方々の意見をうかがい、ブラッシュアップして最終発表を迎えます。

2019年は、観光、歴史、自然などをテーマに各グループが政策を提案しました。市内にはアニメの聖地が点在していることから、「文化観光都市OTSU」として聖地巡礼を促す提案をしたグループが最優秀賞を受賞。学生目線の斬新さと実現可能な点が高く評価されました。

演習の可能性が広がった オンライン活用

2020年も、これを超える提案を私も大津市も期待していましたが、コロナ禍により市役所見学や対面授業が不可能に。そこで見学に代えて、職員の方が同ラボや業務

内容の紹介動画を撮影して下さることに、リモートでの現場見学が叶いました。さらにオンラインでの質疑応答、万全の感染対策を講じたうえで職員の方をお招きしての意見交換会も実施。現時点(2020年12月)では、オンラインでの中間発表に向けて、学生たち自らプレゼン動画を制作中です。

初のオンライン活用でしたが、学生たちはオープンデータの検索方法を学んだり、統計グラフを用いたデータの視覚化や統計的データ分析、政策の提案まで、EBPMを対面と変わりなく体験しました。職員の方に向けて、自分たちの提案をよりわかりやすく説明するプレゼンスキルも高まったと思います。ぜひ、今回のような学びを通じて、これまで誰も描けなかったようなデータ活用をめざし、データサイエンス学部で楽しく「修行」しましょう。



和泉 志津恵 教授
(データサイエンス学部)

データサイエンス教育研究推進室特別招聘教授としてデータサイエンス学部の立ち上げに2015年から携わる。医療統計における研究デザインと解析方法を主な研究テーマとしている。日本統計学会 統計教育委員会・統計教育分科会委員。

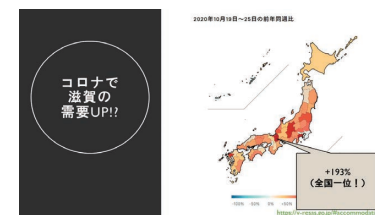


図1 統計グラフの一例



大津市の魅力再発見と題し、各グループが調査結果を発表

現場の声が将来への糧になる

石崎 寛子 データサイエンス学部 若狭高校(福井県)

この授業では、大津市役所職員の方々の生の声を聞くことができ、データの活路の見出し方を学ぶことができるので、大変有意義に感じています。発表に向けては、データから得た細かい気づきを学生の班員と共有しながら、市役所への具体的な提言内容を考えているところです。滋賀大学ではデータの扱い方を学習し、学生同士で実践することができます。将来は大学で得られた学びをもとに、世界中の情報戦に挑んでみたいと思います。

VOICE



滋賀大学の新型コロナウイルス感染症対策

オンライン授業や学生生活、経済状況に関する困りごとに対応するため、情報を一元的に発信し、さまざまな対策を行ってきました。そのなかの一部を紹介します。

オンライン授業



春学期は2020年4月から全面的にオンライン授業がスタートしました。授業や履修登録、パソコンの使い方などに関する問い合わせを受けるため、授業関係に特化した学生サポート窓口(メール対応)を設置しました。

- 個人所有のパソコンを持参して学習するBYOD(Bring Your Own Device)の推奨をすると共に、パソコンを持っていない学生には貸出を行いました。
- データサイエンス学部では、自宅学習支援のため「大学生のためのデータサイエンス(I)」「大学生のためのデータサイエンス(II)」というオンライン講座を無料開講しました。
- 秋学期は対面授業とオンライン授業を併用し、教室の人数制限や座席間隔を空ける、教室に入る前に手指の消毒をするなどの感染防止対策を取りました。



経済面

大学独自の対応として、新型コロナウイルスの影響で家計が急変した学生の**前期・後期分授業料免除申請**を受け付けました。これは、コロナの直接的・間接的な影響で、家計が急変した世帯の学生に対して、滋賀大学独自の授業料免除基準により支援を行うものです。

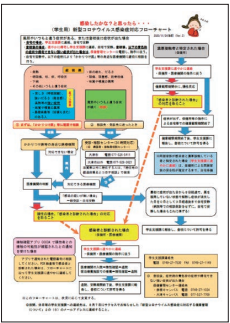
滋賀大学給付型奨学金の制度を立ち上げ、**滋賀大学修学支援事業基金**及び日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症対策助成金を活用し、学生が修学を断念することが無いように経済的支援を行っています。

対外的には、コロナの影響で家計が急変した学生の学習環境が保てるように、学生への寄附「**きらきら輝く滋賀大学基金**」の周知を、ホームページ等で行っています。

学生生活



ソーシャルディスタンスロゴ



フローチャート

学生が大学に入構できない期間は、滋賀大学キャンパス教育支援システム(SUCCESS)や、学習管理システム(SULMS)を使用し、学内情報(学生支援情報、行事に関して)を発信。いずれも教職員のみがアクセス可能なシステムで、迅速できめ細かな情報提供を行いました。

- 生活面や修学面などについて何でも相談できる、学生相談総合窓口を設置。保健管理センターでは、電話やビデオ通話の形でカウンセリング業務を行いました。
- 学生寮や体育館には、アルコール消毒液や体温計を置き、注意喚起の掲示をして対策を徹底させることで、寮でのクラスター発生を予防しました。
- 新型コロナウイルス感染が疑われた際のフローチャートの周知を行いました(P19参照)。また、学生、教職員への意識づけとして滋賀大学独自の「ソーシャルディスタンスロゴ」を作成しました。

就職支援

〈彦根キャンパス〉

- 合同企業説明会に代えて、就職活動支援プログラムはYouTubeで提供。
- 卒業見込証明書などの各種書類は就職支援室で代理発行し個別に郵送。
- これまでの対面面談に加えて電話、オンラインでの面談を実施。(オンラインでの面談実施によって面談の機会が増加)
- 对企业については、企業関係者は来学禁止とし、面談は原則オンラインのみとし、現在も継続中。
- その他、進路相談などはZoomによる相談を受付。

〈大津キャンパス〉

- 教育支援システム(SUCCESS)による1回生全員への入学後アンケートなどをオンラインで実施・回収。
- 小論文指導について、メールによるワード形式での添削指導を実施。
- 個別面接・集団面接・集団討論練習として、ZoomやMicrosoft Teamsによる練習・指導を実施。
- その他、進路相談などはZoomによる相談を受付。

ニュース & トピックス

【データサイエンス学部】

■1期生が大学発ベンチャーを起業！事業展開めざす

データサイエンス学部1期生の井本望夢さん(2021年3月卒業)が在学中に、合同会社mitei(ミテイ)を起業し「滋賀大学発ベンチャー認定制度」に基づき大学発ベンチャーに認定されました。合同会社miteiは、データ分析・インターネット集客支援・WEBコンサルティング・映像デザイン製作・地域貢献及び環境保護

活動などの事業を実施し、人や企業が抱える問題発見から価値創造までサポートする企業です。彦根市を拠点として、これまでデータ分析に縁のなかった中小企業を支援したり、SNSの投稿を分析して商品の販売促進に役立ててもらうなど、さまざまな事業展開を進めています。



■日本経済新聞社主催の学生大会で森口翼さんが準優勝！

日本経済新聞社主催イベント「Data Society Fes 2020」。その一環で開催された学生Lightning Talk大会において、森口翼さん(2021年3月卒業)が準優勝となりました。森口さんは、小売流通業や製造業など6社の企業と所属ゼミとのビジネスプロジェクトに参加し、データ分析手法を駆使して各社の課題を解決するプロセスを経験しました。その集大成を発表し、審査委員や視聴者に高く評価されました。

【経済学部】

■環境保護団体代表・高須海地さんがシンポジウム登壇

滋賀県主催のシンポジウム「CO₂ネットゼロで変わる2050年滋賀の暮らしと社会」(2020年12月)において、経済学部3回生の高須海地さんが登壇。「滋賀と日本の未来を変える10分間」と題し、高須さんが代表をつとめる環境保護団体「Fridays For Future Shiga」の取り組みについて発表しました。「Fridays

For Future」とは、グレタ・トゥーンベリさん和其他の若き活動家が気候危機に対して訴えを起こしたことをきっかけに始まった運動です。「Fridays For Future Shiga」でも、滋賀県知事と気候変動について会談したり、学校へ出張授業をしたりするなど、環境・社会問題啓発活動を続けています。



■第15回 Student Innovation Collegeで優勝！

25大学29のゼミ(3回生・336名)が対抗し、商品企画の立案・発売をめざす「Student Innovation College」。2020年秋の大会にて、山下悠ゼミ所属の学生が、テーマ「通販化粧品の若年層獲得戦略(株式会社ディーエイチシー)」において優勝しました。オンラインで女子大学生を中心に市場調査を実施し、リアル店舗利用の多かった若年層の化粧品購入スタイルに変化を与え、ネット通販へシフトさせる販促プログラムが高い評価を受けました。

【教育学部】

■小学生対象の「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催

大学の研究成果を発信し、科学の楽しさを感じてもらうことを目的に、2020年11月、大津サテライトプラザにて「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催しました。テーマは「台風、集中豪雨などによる風水害のメカニズムを学ぼう」。教職大学院の藤岡達也教授や外部講師のほか、教育学部の理科教育講座に所属

する学生もアシスタントとして参加。小学生にとって身近な話題や滋賀県のニュースを結びつけたり、クイズを盛り込みながら、テーマに沿った楽しい実験を行いました。参加者からは「模型づくりがよかった」「専門の先生に教えていただいてわかりやすかった」などの声寄せられました。



■2021年4月から教育学研究科の教職大学院を拡充

既設の「学校経営力開発コース」、「教育実践力開発コース」に加え、「授業実践力開発コース」「ダイバーシティ教育力開発コース」の2コースを新設。「授業実践力開発コース」は、教科担当・学級担当としての堅固な実践的指導力を備えた新人教員の養成をめざします。「ダイバーシティ教育力開発コース」は、障害、いじめ・不登校、外国人児童・生徒など多様な教育的ニーズに対応できる教員の養成をめざします。

きらきら しがだい人

滋賀大学は、さまざまな制度やプロジェクトといったチャンスを用意し、実践力を鍛える環境を整えています。

その環境を大いに活用し、飛躍的に成長した学生たちを紹介。

きらきら輝く笑顔の理由は、挑戦したことで得た自信と意欲の証です。



社会で活かせる
データ活用力を身につける



データサイエンス学部

山崎 大輔
柏高校(千葉県)

輝く理由

硬式野球部 データ分析

データ分析で 選手の課題を解決

現在、硬式野球部の学生コーチと兼務で、試合や練習のデータ収集と分析を行うデータ分析班として活動しています。選手の具体的な目標設定やモチベーション向上にはデータがとても役立ちますが、分析する側が自由に分析しているだけでは意味がありません。選手と十分にコミュニケーションをとり、選手がどのようなデータを必要としているのかを知る必要があります。「データ分析結果の価値を決めるのは選手である」ことを意識し、どうすれば選手の課題解決やモチベーションの向上につながるかを考えて分析を行っています。

結果をわかりやすく 伝える力も大切

野球部以外にも実践の場を求め、NECによるデータ分析コンペティションに参加しました。山手線沿線区の人口動態データをもとに、新たなビジネスを提案するというアイデアコンテストで、野球部の同じ学部所属する仲間と共に優秀賞を受賞することができました。データ分析を実社会で活用するために欠かせないのは、分析力はもちろんのこと、分析結果をわかりやすく伝える力です。今後も野球部での取り組みやコンペなどを通して、分析力や分析結果をわかりやすく伝える力をつけていきたいと思っています。



図書館を社会科授業に活かしたい

教育学部

野瀬 あかり 八日市高校(滋賀県)

輝く理由

留学・インターンシップ

試練に負けない!今ある 環境で最善を尽くす

「世界をまたにかけて働ける実力を海外で鍛えたい」。そんな思いを胸に3月初旬に渡米した矢先、新型コロナウイルスが猛威を振るいました。オンラインでの授業、ロックダウンで閑散とした街、道行く人の「アジア人か? 離れてくれ」という言葉…。理想の留学生活と180度異なる現実に苦しみましたが、この経験を意義あるものにしようと思いを切り替えました。



リモート授業では積極的に発言し、Zoomでの文化交流会を企画するなど、世界中から集まった学生と交流。留学先のペンシルベニア大学で実践的な英語力を鍛えると同時に、全米トップのウォートン・ビジネススクールでファイナンスの専門性を高めました。

「このままここで働いてよ」 築いた信頼

7月からは、日系企業の北米進出をサポートする企業でインターンシップに取り組みしました。スピード感が求められる環境で「早く動け!」と怒られることもありましたが、最終日には「このままここで働いてよ」と言われるほどの信頼関係を築くことができました。コロナ禍のアメリカで挑戦し続け手に入れた、唯一無二の経験です。かけがえのない1年となりました。

輝く理由

図書館司書

社会科のより広く深い 学びのために

教育学部で社会科の教師になるために学びながら、図書館司書の資格取得に向けた勉強を始めています。社会科の授業では調べ学習などで図書館を活用することが多いのですが、司書になるための勉強で新たな視点を得ることができれば、より深く学べる社会科の授業づくりに役立つと考えたためです。実際に受講してみて、思っていた以上に自分の考え方や見方

が広がったと感じています。

図書館を活用した 授業づくりを体験

司書になるための履修内容には、図書館をどのように教科の授業と結びつけ、活用するかを考える授業もあります。「このテーマでは、どんな風に図書館を活用すればいいだろう」「生徒が意欲をもって取り組むには、どんな図書館資料が必要か」などと考えることはとても楽しく、社会科そのもののへの理解を深めることができたと思います。また、情報メディアに関する授業もあり、情報リテラシーを身につけ、実際に活用していく技術も学べます。専攻や学年の異なる方々との交流も多く、自分の視野を広げることもつながりました。資格取得に向けた学びで、自分の可能性が広がりました。



コロナ禍の留学で得たかけがえのない体験

経済学部

阪本 侑希 生駒高校(奈良県)



輝く理由

コンペティション

先輩や同期生の研究に刺激を受ける環境

データサイエンスで扱うデータには数値、テキスト、画像などさまざまなものがありますが、その中で私は、音声を使ったデータの研究をしています。音声から得られる情報は、音の「高さ」と「大きさ」のみ。そこから「誰が、何をしているか」といった知見を得られるおもしろさがあります。データサイエンスは研究の発展が早い分野で、日々の学習とスキルの更新は不可欠です。



私の所属するゼミでは研究の進捗報告を定期的に行っていますが、先輩たちの高度な研究内容や同期生の発表に学ぶことも多く、意欲向上につながっていると感じます。

未来の人口を予測！実践の場で得た視点

学外では、企業が主催するデータ分析コンペティションに同期のゼミ生と参加しました。過去の人口動態データを用いて未来の人口予測を行い、その精度を他のチームと競うというものです。分析を進める中で、必ずしも最新の手法が良い結果を出すわけではないなどの発見があり、また限られた時間でアイデアの共有やブラッシュアップを行うことは、学内だけでは得られない緊張感がありました。実践的な場で得た視点を、今後の学びにつなげていきたいと思っています。

学外コンペでの経験を今後につなげる

データサイエンス学部

高瀬 壮彦 郡山高校(奈良県)

輝く理由

留学・インターンシップ

コロナ禍で迎えた試験の留学生活

実践的な英語力と、さまざまな国の人とチームで課題を解決する力を高めたいと考え、2020年の2月からカナダのマギル大学に留学しました。多様な文化的背景を持つ人々が住むカナダで、さまざまな国から学生が集まっていること、またテレビ局訪問や現地大学生との交流などの授業に魅力を感じ、留学先を選んだのです。ところが現地で生活がスタートした矢先



の3月、コロナの影響により、対面での授業が1セッションすべて無くなってしまいました。理想の海外生活とのギャップに苦しみましたが、安全性を最優先しつつ留学生活を続けることを決意しました。

仲間と共に農家と消費者をつなぐ

7月から10月まではインターンシップに参加し、地元の農家が消費者に直接販売するファーマーズマーケットの運営を担いました。出店するベンダーの募集から現場でのトラブル対応まで、予期せぬことの連続でしたが、仲間と協力し合ってやり遂げることができました。コロナに翻弄された1年でしたが、自らの力で、そして周囲の人と協力し合って乗り越える大切さを学んだことは、今後の人生の糧となると感じています。



逆境で前を向き、乗り越える大切さを知る

経済学部

池田 愛梨 京都女子高校(京都府)



輝く理由

社会教育主事

社会で行われるすべての学びは生涯学習

小学校の教師になることをめざして学ぶ中で「生涯学習」という言葉に出会い、興味を惹かれるようになりました。人が生まれてから、家庭・学校・職場など、社会で行われるすべての学びは生涯学習として捉えることができます。生涯学習を肌で感じたいと思っていたところ、生涯学習に携わる「社会教育主事」という資格があることを知り、資格取得を考えるようになりました。

学びのすばらしさを伝えられる教師に

社会教育主事の資格を取得する課程には、地域の学習・文化事業を企画・実施する実習があります。私は滋賀県近江八幡市にある男女共同参画センターをはじめとする施設で、職員として事業体験を行い、男女共同について考えるイベントの企画や、地域の人がふれ合う公園でのイベントの準備などに携わりました。実際に地域の人たちと接し、さまざまな年齢や立場の人が主体的に学んでいる姿を見て、自分の視野が大きく広がったと感じます。将来は教師として、「生涯学び続ける」という大きな枠組みのなかで子どもたちや地域の人たちと向き合い、学びによって一人ひとりが個性を活かして生きるすばらしさを伝えたいと思っています。



生涯学習について学び、教職に活かしたい

教育学部

倉辻 大成 高島高校(滋賀県)

輝く理由

企業の課題分析

理論だけでは現実の課題は解決できない

「通信教育における顧客ターゲット」というテーマでデータ分析を行うと共に、企業(JX金属株式会社とガラスメーカーのAGC株式会社)のご協力のもと、「工場における不良原因追及」をテーマにデータ分析し、解決策を提示する経験を積んでいます。与えられた課題を解くのと違い、解決すべき課題を自分たちで見つけることから始めなければなりません。



学んできた理論や手法だけでは円滑に進めることができず、当初は試行錯誤の連続でした。

現場の方の声を聞き、実践的に学ぶ

見つけた課題についてデータ分析を行い、解決策を提示しても、論理の飛躍があるなどして現場の方に納得していただけないこともあり、一から分析プロセスを点検しなおし状況を打開できましたが、詰めの甘さを痛感しました。実際のビジネス現場から課題を設定し、現場の方に指摘いただけることが実践的な学びにつながっていると思います。また、ゼミの同級生や先輩方と共に学ぶことで互いに刺激を与えあい、確実に成長できている実感があります。今後も切磋琢磨し、現場で役立つ力を身につけていきたいと思っています。



ビジネス現場の課題解決に挑む

データサイエンス学部

鉦持 実祐 観音寺第一高校(香川県)

輝く卒業生たち

本田技研工業株式会社

松永 瑞紀さん

Profile

京都府出身。2014年3月、滋賀大学経済学部ファイナンス学科を卒業。同年4月「本田技研工業株式会社」に入社。同年10月、熊本製作所生産業務部会計課に配属。2015年11月、和光ビル経理部原価経理課に配属。2018年6月、青山ビル経理部会計課に配属され現在に至る。小学校から高校までバレー部で活躍。

静かな環境下で勉強に集中できた滋賀大学 “The Power of Dreams”で夢が持つ力を信じ続ける

滋賀大学の静かな環境で勉強に集中

小・中・高とバレー部に所属してバレー漬けの日々を送り、やりきった感があったので大学では勉強をがんばろうと思い、高校の先生のすすめもあって滋賀大学に進学しました。受験前にキャンパスを見に来た時、とても静かな環境で「これなら勉強に集中できる!」と思ったことを覚えています。

卒業後は「本田技研」に入社し、7年目が過ぎようとしています。最初「熊本製作所」の生産業務部会計課に配属され、同所で製造している二輪や汎用車の原価管理や製作所予算管理を担当。約1年後に埼玉の和光ビルへ。「製作所業務集約プロジェクト」に携わり、熊本製作所の原価・予算管理を行っていました。現在は青山ビルの会計課で、グループの国内外子会社のとりまとめと連結決算業務に従事し、有価証券報告書やForm20-F（年次報告書）

などの開示業務にも携わってきました。実家がものづくりに関わる仕事をしており、子どもの頃の自動車工場見学がとても印象に残っていて自動車産業に関心がありました。

2度の短期留学でグローバルな視点を養う

大学時代は宮西ゼミに所属していました。宮西先生は生粋の大阪人でとてもおもしろい方でしたが、アメリカのビジネススクールで専門性を極められ、いろいろな分野で実績を積まれている頭が切れる方なのでゼミ生の意識や学力も高く、仲間からも良い刺激をもらいましたし、ハードでしたが「大学時代は勉強をがんばって専門性を磨いてきました」と胸を張って言えるものになったと思います。2回生の時にアメリカ、3回生でシンガポールと2カ月の短期留学をしたのですが、休み時間も惜しんで勉強しているような学生



たちばかりだったので、将来自分もこういう人たちと仕事ができる人間になりたい、日本にばかり目を向けるのではなく、グローバルを意識して自分の方向性を決めていきたい、と考えるようになりました。短期ではありましたが、とても中身が凝縮した、自分の人生を考えるうえで大変貴重な経験になったと思います。

夢の実現のために熱い思いを持ち続ける努力を

入社して3年目の2016年4月に熊本地震が発生。最初に配属された熊本製作所も大きな被害を受けました。私も学生時代の経験を活かし、会社の仲間たちと共に被災者の支援に取り組みました。

“The Power of Dreams”をスローガンに掲げるホンダの社員として、後輩の方には夢を持ってほしいと願っています。夢を実現するには熱い気持ちを持ち続けることが大切ですが、滋賀大学の静かな環境で集中して学び、外の世界にどんどん出ていって挑戦する。こんな静と動を組み合わせた過ごし方で、学生時代に夢への第一歩を踏み出してください。



近江八幡市立岡山小学校

竹本 慎太郎さん

Profile

滋賀県出身。2017年3月、滋賀大学教育学部 学校教育教員養成課程 初等教育コース初等教科専攻社会専修卒業。講師を経験した後、2018年4月に近江八幡市立岡山小学校に着任。3年生、5年生の担任を経て、現在は特別支援学級を担当。中学からテニスを始め、大学時代は硬式テニス部で活躍する。教員になるのは中学時代からの夢だった。

実践的で採用試験の情報やノウハウも豊富 仲間と共に子どもに寄り添える教員をめざす

学校の先生は中学時代からの夢

歴史が好きで、中学時代から教育に携わる仕事がしたいと思っていました。大学進学の際も文学部か教育学部かで悩みましたが、将来教員になった時に必要なことを勉強したいと思って滋賀大学に進学しました。小学校の教員になろうと決めたのは、3回生の時に小学校へ教育実習に行ったのがきっかけです。子どもたちと長時間一緒にいることで自分も成長できるし、社会だけでなく、いろいろな教科を通して子どもたちの力になりたいと思いました。アルバイトで塾の講師を経験したことも大きかったと思います。進学塾ではなく、どちらかといえば勉強が苦手な子どもたちのための塾でしたが、子どもたち一人ひとりの力や様子を見ながら授業を進めることの大切さを学びました。

1年間講師を経験して小学校の教員に

滋賀大学は教員採用試験の情報が豊富でノウハウの蓄積もあり、教員をめざす



仲間が多かったのもとても心強かったですね。実践的で、滋賀大OBの方に面接や作文指導などもしていただき、いろいろなアドバイスもいただきました。卒業後は1年間甲賀市の綾野小学校で講師を経験した後、現在の近江八幡市立岡山小学校に着任しました。1年目は3年生、2年目は5年生、3年目は知的な障がいを持つ子どもたちが通う特別支援学級の担任になりました。今までよりも子どもたち一人ひとりをしっかりと見るように心がけています。注意する時もこれまでのように「～しましょう」と言うだけでは伝わらないことも多いので、「～してはダメ」と言う前に、どうしてそんなことをするのかを子どもの視点に立って考えるようにしています。

教員になったら一人で悩まないで

教員になる時、どんな子どもに出会うか、どんな同僚に出会うか、どんな保護者に出会うか、どこの学校に行くかは自分で選ぶことはできません。悩みがあったら一人でクヨクヨしないで、いろいろな人に相談することが大切です。私自身、指導がうまくいかずに悩んだこともありましたが、そんな時、「こうしたらうまくいくよ」とか、自分の体験談を聞かせていただくことで、自分だけじゃなかったんだと安心して前向きに進むことができるようになりました。何事もうまく行くより行かないことの方が多いです。壁にぶち当たった時は自分の考えにばかり固執せず、さまざまな意見に耳を傾けながら方向性を見出していけるといいのではないのでしょうか。





今だからできることを考えよう！

海外留学できる日に備えて

2019年末に確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に感染が拡大し、数ヵ月後には全世界に拡大、「COVID-19」と名付けられたその新型コロナウイルスは1年以上経った今も猛威を振っています。そのため、我が国では海外渡航や入国が制限されるなど、全世界で人々の国際流動性が低下することとなり、海外留学ができない日々が続いています。このような状況で、まだまだ留学が再開できる見通しが立たない状況ですが、「どのような状況となったら海外渡航ができるのか?」「海外渡航ができるようになり、留学ができる状況になるまでの間、どのような準備が必要か?」また、基本に戻り「留学する目的は?」など、今だからできること、やれることを考える機会としていきましょう。



外務省海外安全情報を確認しよう！

どのような状況となったら海外渡航ができるのか。本学では「海外渡航に関する留意点について」をホームページに掲載し、本学の方針を示しています。この方針は、外務省海外安全ホームページの海外安全情報に対応して定められています。具体的には、以下のとおりです。

危険レベル	外務省危険情報	本学の方針
レベル 1	十分に注意してください。	注意して渡航する。
レベル 2	不要不急の渡航は止めてください。	渡航を延期もしくは中止する。
レベル 3	渡航は止めてください。(渡航中止勧告)	渡航を中止する。渡航中の場合は、直ちに帰国する。
レベル 4	退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)	渡航を中止する。渡航中の場合は、直ちに帰国する。

つまり、外務省海外安全情報が「レベル1」にならないと留学することができません。海外留学に行く国・地域はもちろん、渡航国内の行政区までの危険レベルを確認しましょう。また、海外安全情報は日々更新されますので、渡航前はもちろん、渡航後も常に確認しておくことが必要です。そのためにも、「たびレジ」に登録することや在外公館への「在留届」の提出等を行うことが重要です。詳しくは右記ホームページから参照してください。

出典:外務省海外安全ホームページ



留学する目的は? ~日本学生支援機構「海外留学支援サイト」の活用~

オンラインなどによる新たな形の留学の取り組みも行われていますが、やはりリアルにその土地に留まって学ぶ、現地での人間関係づくりや文化を学ぶことなどはリアル留学で得られる大きなメリットではないでしょうか。そこで、改めて「留学する目的」を考えるにあたり、留学計画を立てていた皆さんは確認の意味で、これから留学計画を立てようとしている皆さんはぜひ参考のために、日本学生支援機構「海外留学支援サイト」を活用していただきたいと思います。「はじめての留学」について考えときのポイントや、「海外留学のための奨学金」「イベント情報」「よくある質問集」の情報がまとめられていますので、参考としてください。

出典:日本学生支援機構「海外留学支援サイト」



国立大学法人滋賀大学基金による語学検定試験受験料支援の充実

海外渡航ができるようになり、留学ができる状況になるまでの間、どのような準備が必要でしょうか海外留学に必要なことの一つに、語学力があります。交換留学の派遣基準や受入れ大学にて多くの場合、語学力の基準が定められていたりしています。その語学力の証明には、指定されている語学検定試験等の成績(スコア)が必要となります。そのためには各種語学検定試験を受験しなければならないのですが、その受験料は決して安いものではありません。そこで、留学に際して必要な語学検定試験(TOEFL、IELTS、HSK、仏検など)を受験する本学学生を対象に「国立大学法人滋賀大学基金による語学検定試験受験料支援」を実施しています。詳しくはSUCCESSなどで確認してください。

Go abroad 留学体験記

~留学生生活から新型コロナウイルスへの対応~

留学生生活残り3ヵ月を残し安全に日本へ

2019年8月から2020年の3月までの約8ヵ月間、サウスイーストノルウェー大学に交換留学生として留学しました。ノルウェーを選んだのは、日本とまったく違う環境で自身を成長させたかったことと、観光の授業に興味があったためです。留学先のキャンパスはBøi Telemarkという、ノルウェーの南部の自然豊かな町にありました。標識などはほぼノルウェー語で書かれており、慣れるまでに時間がかかりました。大学では、Business Administration(経営学)や国際経済学、持続可能な観光、またノルウェー語の授業などを受け、簡単なノルウェー語の読み書きや会話はできるようになりました。授業ではグループワークや

Norway



サウスイーストノルウェー大学

ディスカッションが多く、最初は戸惑いでしたが、積極的に参加。また観光の授業ではエコツーリズムに関する学びを深めることができました。授業以外でもヨーロッパやアメリカ大陸から来た仲間たちと話したり、お互いの国の料理を一緒に作ったりして交流を深め、とても楽しく有意義な時間を過ごしました。3月上旬から新型コロナウイルスがヨーロッパで流行しはじめ、ノルウェーでも首都がロックダウンになり、3月下旬に日本に帰国。留学生生活残り2ヵ月を残してのあわただしい帰国となりましたが、国際交流課の方々をはじめとする手厚いサポートのおかげで、安全に帰ることができました。



高橋 優奈

経済学部
鶯谷高校(岐阜県)

帰国後はオンラインで授業を継続

2020年2月から10ヵ月間、シドニー工科大学で観光学やデジタルマーケティングを学びました。授業はLecture(講義)とTutorial(少人数クラス)に分かれており、講義で得た知識をもとに少人数クラスでグループワークやディスカッションが行われます。休日には友だちとビーチに行ったり寮のパーティーに参加したりと毎日を満喫していました。しかし、コロナの感染拡大と共にトイレトペーパーが買えなくなったり、「寮の4階に住む〇〇がコロナの疑いで病院に行ったらしい」という噂が1日で広まったりと、生活の変化を実感しました。昨日まで5万円だった帰国便の航空券が1日で30万円まで跳ね上がるなど、刻々

Australia



シドニー工科大学

と状況が変わり不安が多い中、何度も国際交流課の先生方に電話で相談にのっていただき、無事に帰国することができました。帰国後は、主にZoomを使用して授業を受講しました。相手の電波が悪くだけで英語が聞き取れなくなるなど苦労はありましたが、リモートで外国人と話し合ったり課題に取り組んだり、オンライン授業ならではの経験ができました。また並行して就活や卒論執筆が行えたこともメリットでした。想像とはまったく異なる留学になりましたが、臨機応変に対応する力が鍛えられました。多くのサポートのおかげで唯一無二の経験をさせてもらったことに感謝し、学びを今後活かしたいです。



秋山 レナ

経済学部
石山高校(滋賀県)

国際交流課が帰国前後に手厚くサポート

私が帰国を決意したのは、2020年3月16日でした。日本の外務省がオランダの危険度レベルを2に引き上げたのと同じ日です。そして帰国の便に搭乗したのが同月21日でした。帰国の際には、国際交流課の職員の方々にご支援をいただきました。危険度レベルが1の時点から連絡をくださり、日本では日をまたぐような時間帯にも関わらず連絡を取っていただいていた。帰国後には2週間の隔離場所の提供や生活のサポートをしていただきました。帰国前に何よりも残念だったのが、対面で別れの挨拶をできた友人がごくわずかであったことです。友人、教授、所属団体のメンバーにはテキストや通話でしか別れを告

Netherlands



ゾイド大学

げることができませんでした。しかし彼女ら彼らの前向きなメッセージに心を支えられました。また面会できた友人との時間は、帰国しなければならないことを忘れるくらい「いつも通り」でした。そこでは、その友人の好きなオランダ語の話になり、マッシュルーム(paddestoel)が好きと言っていたのを覚えています。どうやら"paddestoel"を直訳すると「蛙の椅子」になるみたいです。ほのぼのとしたセンスでいいなと思いました(笑)。このようなひと時が、怒涛の早さで過ぎた帰国までの5日間の中で、最も時間がゆったりと流れ、のどやかであったと振り返って思います。



卜部 眞風

経済学部
名東高校(愛知県)

コロナ禍とshiga-uni リアルタイムしがゆに

学生生活

オンライン授業のコツ

春学期からオンライン授業が主流になり、戸惑った人も多いのではないのでしょうか。

そこで、学生目線でオンライン授業を上手に活用するコツについて紹介したいと思います。

まず、オンライン授業には2種類あります。リアルタイムで授業配信する同時双方向型、録画した映像を配信するオンデマンド型です。

同時双方向型に関しての注意すべき点は2つです。①ミュートにする、②授業時間を厳守するという事です。ZoomやGoogle Meet、Microsoft Teams、Skypeなどさまざまなオンライン授業があるなかで、最初は使い方がわからなかったと思います。しかしミュートを解除せず授業を受講していると生活音がだだもれになり、恥ずかしい思いをしてしまいます。ぜひ気をつけてください。

また、自宅で授業を受講する際には、大学とは違い授業のチャイムが鳴りません。うっかり授業を忘れていて参加し逃した、なんてこともあると思うので、授業時間はちゃんと把握するように気をつけましょう。

次に、オンデマンド型に関してですが、いつでもどこでも場所や時間を選ばず授業を受講できます。そこで筆者のオススメは週の前半に授業を詰めて受講することです！私は大学生の特権である全休日をどうしても作りたいので、月・火・水に授業を詰め込んで、木・金・土・日は完全にオフの日をしています。オフの日はバイトをしたり、課外活動をしたり、趣味の時間にあてたり、満喫しています。皆さんもぜひ試してみてください！

学校現場での実習が行われる教育学部では、実習を安全に行うために、学校訪問の2週間前から検温・体調異常の記録を行う「2週間ルール」を徹底しています。また、ウィズコロナ時代の新しい教育の形として、オンラインでのワークショップを開催しているゼミもあります。



学生だから気をつけること

現在滋賀大学では、県内の感染状況を見ながら対面授業や構内での活動が行われていますが、感染状況が改善したわけではありません。そこで、普段の生活や就職活動などで“学生だからこそ気をつけたいこと”をもう一度考え、行動していきましょう！

①外出時は、常にマスクを！ 新型コロナウイルスの代表的な感染経路は、飛沫感染や接触感染。人は会話中に唾液が飛びため、マスクの着用は必須です。外出時にマスクを着用することは、咳エチケットになるだけでなく不特定多数の人が触ったものにふれた手で顔を触ることを防ぐことができます。就職活動の対面の選考では、フェイスシールドや除菌アイテムを配布する企業もあります。いろんな場所に行く就職活動では、予備のマスクや携帯用の除菌ジェルなども持ち歩いておきましょう。

②うがいと手洗い、アルコール消毒！ 新型コロナウイルス感染拡大後、その重要性が強調されているうがいと手洗い。水とハンドソープの手洗いだけでも、ウイルスは減らせますが、うがいもできれば新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザ対策にもなります。アルコール消毒もできれば、かなり効果的。外出時は各施設に設置されているアルコール消毒液で、手を清潔にしておきましょう。もちろん、自分で除菌アイテムを持ち歩くことも大切です。

③不必要な外出は避ける 対面授業や就職活動以外での外出を避けることが重要です。今一度「必要な外出なのか考え直す」というそれぞれの判断が求められています。また、外出の際には検温し、体調が万全でなければ、外出先で感染するかもしれない（感染のリスクが高まる）ということを考えましょう。大学や就職活動先の企業では、対面授業や選考の前に検温を要求されます。必ず検温して、無理のない範囲で動きましょう。

④「感染したら…」を考える もし、新型コロナウイルスの症状が出ている、濃厚接触者になった、という場合は速やかに各医療機関や学生支援課に相談しましょう。滋賀大学ホームページでも、「新型コロナウイルス感染症対応フローチャート」(※)があるため、それに沿って、診療を受けるなどしてください。「考え過ぎかも」とは思わずに相談を！

一人ひとりの予防意識が大事です。慣れてしまっただけで気が緩んでしまっている人も、そうでない人も、今一度自分の予防策を見直し、自分や周りの人を大事にしましょう。

※新型コロナウイルス感染症対応フローチャート



サポートチームデザイン カモンちゃんマスク！

カモンちゃんデザインのマスクが登場します！学生広報サポートチームがデザインしました。洗って再利用できるマスクだから、清潔で安心です。それぞれの学部カラーも押さえつつ、シンプルな単色のマスクなので、いろんな洋服にも合わせられます。また、子ども用にもマスクが登場！外出時もカモンちゃんと一緒にです！

★教育学部カラーの、華やかでありつつも派手すぎないオレンジ色のマスクには、くつろぎカモンちゃんのワンポイント。顔色を邪魔しないカラーのため、メイクなどにもびったり。

★経済学部カラーの、顔を明るくしてくれる春めいた黄緑色のマスクには、すまし顔カモンちゃんのワンポイント。流行りのミントカラーのお洋服に合わせると、統一感が出て素敵です。

★いろんなカモンちゃんが散りばめられたポップなマスクは、お子様用にお使いいただけます。

★シックでどんなお洋服も引き立たせてくれるグレーのマスクには、くつろぎカモンちゃんのワンポイント。どんなコーディネートでも邪魔せず、引き締めてくれるグレーは必見です！

★データサイエンス学部カラーの、落ち着いた薄紫色のマスクには、弾け顔カモンちゃんのワンポイント。落ち着いた色なので、どんな季節にでも合いますね。

かわいらしいカモンちゃんと楽しく感染症予防をしていきましょう！これらのマスクは今年から、オリジナルグッズとして活用されます！機会があればぜひお手にとってみてください。



自粛中に始めたこと

★私は自粛中に楽器を始めました。もともと音楽、特に邦ロックを聞くことが好きで、今回の自粛期間をきっかけにエレクトリックギターを購入しました。アコースティックギターが主流ですが、エレクトリックギターは音が小さく、隣の部屋に音が響かないので一人暮らしの人にはオススメです。

小野 愛理

★私が自粛中に始めてみたことは、観ることができていなかったいろんなドラマや映画を観ることです。映画のサブスクリプションに入会し、映画や懐かしのドラマを見返して、映像作品をブックマークしておけるアプリ（Filmarksなど）で感想をメモしたり、新しい作品をチェックしたりしました。普段はやろうと思って後回しにしていたものが、いざ観ると自分の糧になるものが多いので「おうち時間」を楽しんでいます。

酒井 優美

★毎日決まった時間に起床できるようにがんばりました。今ではアラームなしで自然に目覚めるようになりました。朝の時間を有効活用して来年の教員採用試験の勉強を習慣的にできるようになりました。

古田 莉子

メンバー

酒井 優美（経済学部）

小野 愛理（経済学部）

細川 寛司（データサイエンス学部）

乾 幸太郎（教育学部）

古田 莉子（教育学部）



サポートチーム

学生広報

オンラインやフェイスシールドを活用し練習

▶▶彦根キャンパス

アメリカンフットボール部

アメリカンフットボール部は週5回、日々練習に励んでいます。普段の練習ではポジションごとに分かれてそれぞれのスキルを磨き、その後全体で試合形式の練習をするという流れになっています。しかし、コロナ禍ではこのような練習が制限され、思うような練習ができませんでした。そこでオンラインで何人かのグループを作って筋トレを行う、ポジションごとにそれぞれ勉強会をするなどして、自宅でもできるスキルアップに努めました。全体練習が再開してからフェイスシールドをつけるなど、対策を図って練習をしています。アメフトは初心者でも活躍ができるスポーツです。ぜひ練習を見に来てください！



試合前のミーティング

動画共有サービスで無観客ライブを開催

▶▶彦根キャンパス

軽音楽部

軽音楽部では、学期ごとに開催される定期ライブや滋大祭でのライブなどに向け日々練習に励んでおります。また夏季休業期間中には合宿を行うなど、音楽を通じて学生同士での交流を深めてきました。ライブや合宿が開催できなかった期間はオンライン通話も活用し部員との交流に努めました。コロナ禍では消毒や換気を行ったうえで部室の環境を見直すことで、新しい生活様式をふまえた練習が可能になりました。現在は学祭での演奏のほか、動画共有サービスを用いた無観客でのライブを企画しています。これからも学年を問わず一緒に練習できるアットホームな雰囲気の中、活動に取り組んでいきたいと思います。



部室の環境を見直し練習

コロナ対策をふまえ新入生交流イベントを企画

▶▶大津キャンパス

運動部連盟

従来は入学式前に新入生対象の「さくら咲くツアー」を行います。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で、実施できませんでした。少しでも新入生同士が交流できる場を設けたいと思い、秋に「もみじ照るツアー」を企画しました。「さくら咲くツアー」では丸一日使い、大講義室で部活・サークル紹介を見たり、体育館でドッジボールをしったり会食したりします。今回の「もみじ照るツアー」は2日間に分け、さらに午前と午後に分け、教室を複数借りて各教室5人程度ずつで入ってもらうことで、人が集まりすぎることを避けました。会食やドッジボールなどはできないので、「班員探し」という企画や、動画・学校ツアーを中心に実施しました。



小グループにわかれて「班員探し」

さまざまな対策をしながら練習を継続

▶▶大津キャンパス

吹奏楽団

地域の依頼演奏やコンクール、学園祭、定期演奏会など、さまざまなイベントに向けて日々練習に励んでいます。コロナ禍においては多くのイベントが中止となりましたが、一日一日を大切に、団員一同一緒に音楽を楽しんでいます。現在は、手洗いうがい、手指消毒の徹底、検温、換気の実施だけでなく、演奏中のフェイスシールドの着用、物の貸し借り・椅子などの共用の禁止、屋外でのつば抜き、活動後の共用物・ドアノブの消毒等の対策を徹底しています。また、日頃から団員の感染症対策意識を高める声かけを積極的に行っています。今後もそれらの対策を続けていき、感染予防に努めていきます。



フェイスシールドを活用し野外で練習する日も

Pick up CLUB & CIRCLE

部活・サークル活動・自治会活動にも
さまざまな影響のあったコロナ禍。
その中での活動をご紹介します。

オンライン対局アプリの活用で実力アップ

▶▶彦根キャンパス

囲碁将棋部

通常時は部室に集まって活動していましたが、コロナ禍で対面での部活動が制限された2020年春学期中は、オンライン対局アプリを用いたZoomでの活動に切り替えました。将棋や囲碁は他のスポーツと違い、インターネットを介して対局を行うことも簡単なので、コロナ禍でも自宅にいながらスムーズに活動を行うことができました。2020年12月中旬には、オンラインで参加できる学生大会にも部として参加。また、対面での活動も、換気や部員同士の間隔に注意しながら、順次再開しています。今後も世の中の時流をうかがいながら、オンラインと対面の両方の環境を、うまく使い分けて活動していきたいと思います。



秋学期からは対面の練習を再開

オンラインを活かして海外からの参加者も

▶▶大津キャンパス

英会話サークルSULEE

私たちは英会話を中心に英語を使った活動を行っています。毎週1回～2回の英会話活動に加え、春にはスピーチコンテストや、夏に行う英語キャンプなど英語を楽しく学べるイベントも開催しています。2020年度は新入生も多く所属しサークルとして一段と成長できた年になりました。新型コロナウイルスが流行し私たちの活動も大きく影響を受けましたが、その中でもオンラインで毎日英会話やスピーチコンテストを開催しました。オンラインの強みを活かし、海外からの参加者を受け入れ国際交流にも力を入れています。今年も「楽しく英語を学ぶ」を目標に仲良く活動していきたいと思っています。



Zoomを使ってつながり、国際交流を行った